

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

津波避難について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

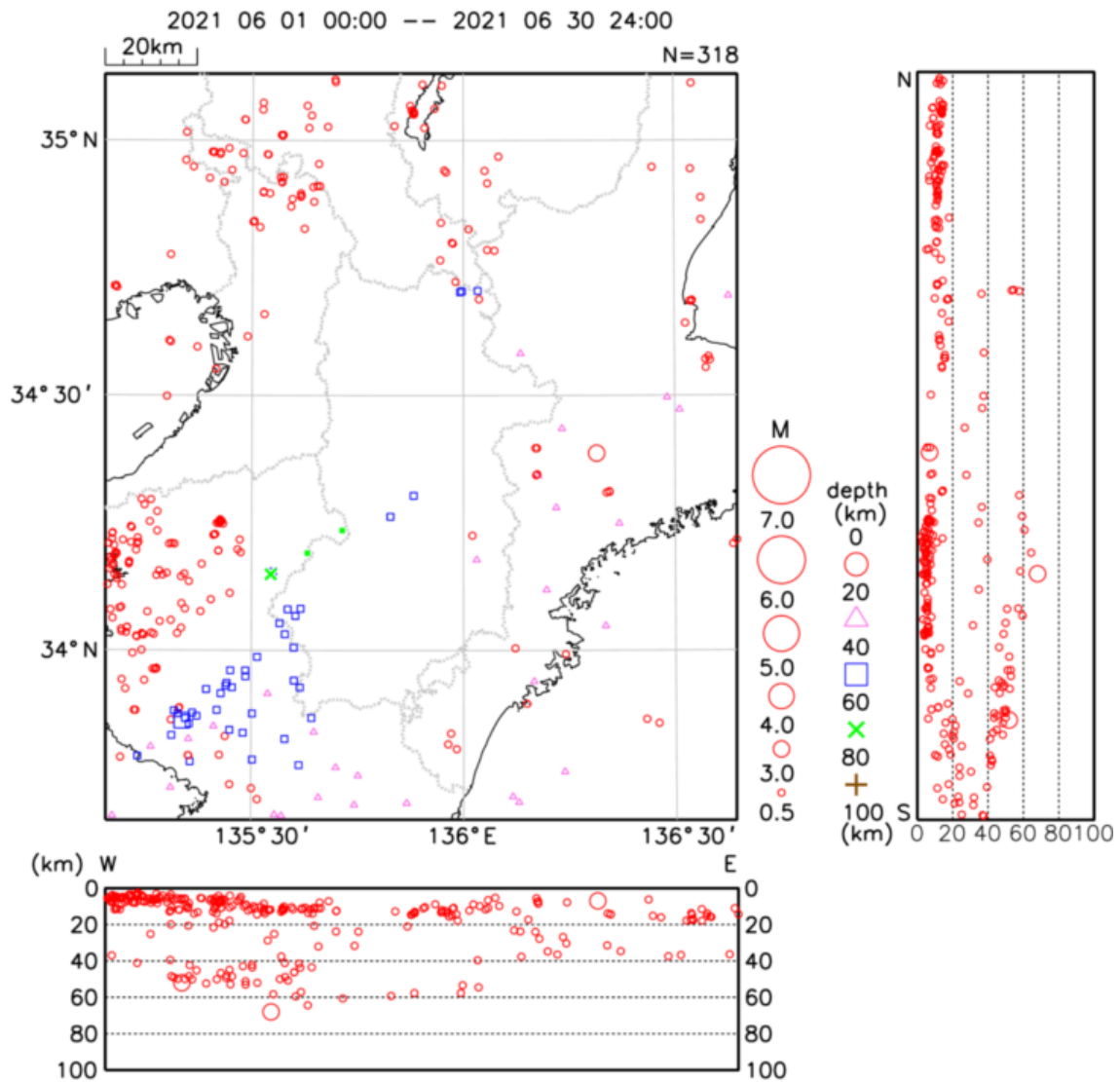
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2021年6月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で6月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～津波避難について～

夏は海でのレジャーや、買い物などで臨海部へ行くことが多くなる時期でもあります。今回は注意喚起の意味も含め津波から命を守る行動について紹介します。

■津波から逃げる

津波はとても速い速度で襲ってきますので、海の近くにいた場合は以下のことに留意して直ちに「より高いところ」を目指して逃げましょう。

- ・強い揺れ、長い時間続く揺れを感じたとき
- ・揺れを感じなくても大津波警報・津波警報を見聞きしたとき

気象庁は津波による災害が予想される場合、地震発生後約3分を目標に大津波警報・津波警報・津波注意報を発表します。

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、海水浴場等で知らせる津波フラッグ等で知ることができます*。

大津波警報・津波警報が発表された場合は、沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。また、津波注意報が発表された場合は、海の中にいる人は直ちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波は長い時間繰り返し襲ってきますので、避難後は最新の情報を確認して、津波警報・注意報が解除されるまで避難を継続しましょう。

■津波に備える

□津波の標識

津波による浸水のおそれがあるところには、津波避難場所などがわかる標識を設置していますので事前に確認するようにしましょう。

□津波ハザードマップ

津波被害や津波による浸水のおそれがある自治体では、津波浸水想定や津波避難場所を示した図（津波ハザードマップ）を作成していますので、これらの地域に行かれる時は、事前にインターネットで確認することをおすすめします。この他、ホテルやショッピングセンター、レジャー施設などの事業所では津波避難計画を策定している場合がありますので、施設管理者の指示に従ってください。

また、大阪湾沿岸地域などの臨海地域に通勤・通学されている方は、自治体のホームページや広報紙などで避難場所・避難所を確認し、避難訓練や帰宅訓練への参加に努めましょう。

津波避難誘導の標識の例



津波避難場所



津波避難ビル

津波浸水地域の標識の例



津波注意

津波警報等を伝える旗



津波フラッグ

※「津波警報等」は、大津波警報・津波警報・津波注意報の総称です。令和2年夏から、海水浴場等における津波警報等の伝達に赤と白の格子模様の旗である「津波フラッグ」が活用されるようになりました。

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去5年間程度分掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

